



第80期 報告書

株主通信

平成19年4月1日～平成20年3月31日



株式会社指月電機製作所

<http://www.shizuki.co.jp/>

証券コード 6994

東証二部・大証二部



代表執行役社長

梶川 泰彦

指月グループの経営方針、経営概念

我々指月グループが社会の中で実現していくべきことは、商品を通じてよりお客さまに満足いただける電気エネルギーのマネジメント提案だと考えています。

原油高や環境・省エネルギーが、大きな社会的な課題となっている現在、この課題に対して、商品を通じて貢献することこそ、人間性の尊重と環境への貢献を大きな柱としている、当社の社是の実現にほかなりません。おかげさまで、今期はその社会への貢献が、決算の数字としても反映できるものになったかと思えます。

企業は株主のみならず、株価や配当という形でもより多くのメリットを提供しなければなりません。そのメリットを提供するためには、企業体としての全体像がバランス良く発展している必要があります。

社 是

我々は人間性を尊重し
環境を大切に作る無駄のない物づくりにより
お客様に満足を提供し
社業の発展を通して社会に貢献します

業をめざして――。

企業を支える「人づくり」への取組み

企業の発達のために私が大切と考えているのは「質の経営」という事です。商品が品質・価格・納期ともに競争力があり、お客さまに満足いただけること。この中心軸がぶれずにしっかりしてはじめて、企業の体力全体が育っていくのです。この企業体力を育てるポイントは、やはり「人」です。

良い商品を提供するために、社員が考え、働く意欲を明確化していること。常に自分の仕事を徹底的に改善し続ける知恵と働きを持っていること。そういう社員ひとりひとりの「考働」がなければ、株主のみなさまに結果を提供することはできないのです。

当社の社是に大きく「人間性の尊重」を掲げているのも、理念を実現するのは人であるという当たり前の事を大切にしているからです。当社では「JIS（シムス）」という、総合マネジメントシステムを構築

考働指針

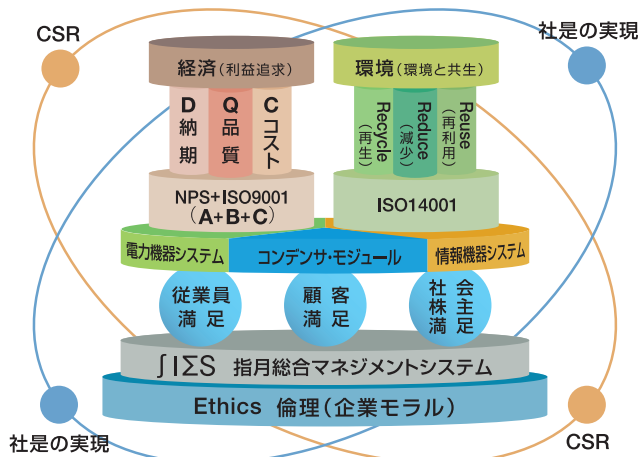
1. 仕事とは約束であり職場は約束を果たす場である
2. いかによれば可能かを語れ
なぜ不可能かを語る必要はない
3. 知恵を使え 気を使え 手を使え

していますが、これも人づくりを中心としたシステムです。「いかなる環境の変化にも機敏に適応する企業体質」を創り上げることこそ、私の仕事です。



定期的に行われているJIS会議の様子

指月グループの経営概念



JIS<指月総合マネジメントシステム>とEthics<倫理(企業モラル)>を基盤として社是の実現と社会的責任を果たし、永続的成長を實踐。

NPS: New Production System
A+B+C: A(開発、営業など)+B(生産)+C(物流、サービスなど)

人づくりと長期を見据えた展望が、これから結

AIM2010。そして次のステップへ

おかげさまで、「AIM2010」として掲げた数値目標は順調に達成しつつあります。2002年に私が社長に就任しました時に、事業の選択と集中ということを考えてきました。当社は電気エネルギーのマネジメント企業であり、これからの時代を考えれば、新エネルギーなどでの電気の安定性を保つために役立つ電気二重層コンデンサのFARADCAPと、インバータなどの高周波用途のMIC/MEC商品を強化することが重要と考えていました。以来、経営資源をその二本柱に集中しつつ、新エネルギー・電気品質の安定などが必要と

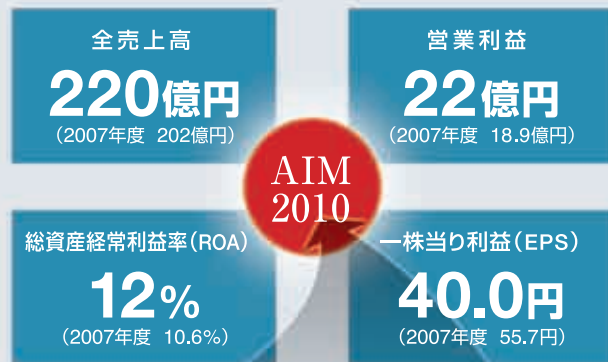
なる、あらゆる分野にその商品や技術を提供できる体制と人づくりに力を注いできました。

今回の決算の内容は、その舵取りの結果が、やっと表れてきたということです。AIM2010は今後も引き続き目標として掲げていきますが、現在、次のAIMを策定中で、より大きなステップへと歩みを進めて参りたいと考えています。

平凡こそ非凡。真に安定した健全経営をめざして

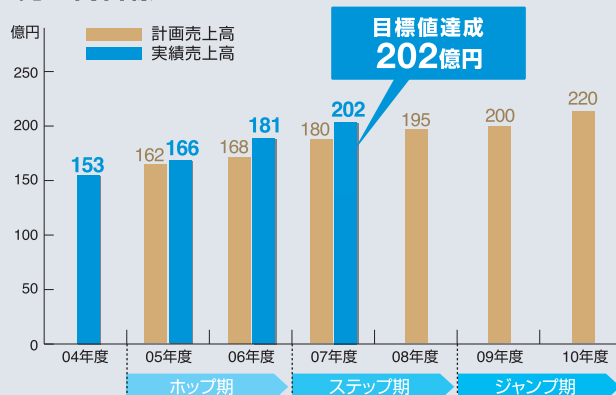
私が技術畑出身ということもあり、現在は「電気エネルギーのマネジメント企業」というコンセプトで経営を進めております。このコンセプトは、電気を

AIM2010 — シツキが目指す2010年度のあるべき姿 —



- JIS<指月総合マネジメントシステム>の徹底
- 社是の実現と社会的責任 ● 変種変量市場への対応

売上高目標



TOPICS

01

新幹線N700系に採用!

パワエレ用モールドコンデンサ

平成19年7月1日より運転を開始した、次世代の新幹線車両N700系。そのインバータ回路に、当社の車両用モールドコンデンサが採用されました。

N700系は、従来の700系を高性能化した車両。最新のテクノロジーを搭載し、あらゆる面でグレードアップが図られています。

この性能アップのためには高度な制御技術が必要であり、構成部品においても高い機能が要求されます。

当社のコンデンサは、①独自の素子構造により、従来比80%の小型・軽量。②オイルレス化およびヒューズ機構付フィルムによる安全性。③最高水準の低インダクタンス。という特長があり、そのシツキの技術が認められ、N700系の高速性、快適性、環境性能、省エネルギー化に貢献しています。



新幹線N700系に採用されたパワエレ用モールドコンデンサ

02

澁澤賞・中日産業技術賞
ダブル受賞!

瞬低・短時間停電補償装置 V-Backup

落雷時などに起こる「瞬時電圧低下(瞬低)」は、生産ラインストップ、製品不良発生等の問題を引き起こし、時に億単位の損害が出ます。

当社、電気二重層コンデンサ式の瞬低・短時間停電補償装置V-Backupは、鉛蓄電池方式では3~5年だった寿命を15年と伸ばし、蓄電エネルギーも電解コンデンサの約100倍。しかも、重金属などの化学反応を使わない低環境負荷タイプという新しい性能を備えています。この開発に対して、民間唯一の電気保安関係表彰として各界より認められている第52回 澁澤賞と、中日産業技術賞・特別奨励賞をダブル受賞いたしました。澁澤賞では、独創性と技術力で時代の要請に応えている点に加え、地球環境問題にも対応している点が高く評価されました。これをはげみに、今後も瞬低補償の主役として改善に努めてまいります。



澁澤賞を受賞したV-Backup

03 電機工業技術功績者表彰受賞

デマンドモニタ V-Monitor

デマンドモニタ(V-Monitor)は、電気料金の算出基準となる「デマンド電力」を監視・予測し、あらかじめ設定した値を超過しそうになると、音声等でお知らせする装置。このたび、この装置が、第56回 電機工業技術功績者表彰「奨励賞」を受賞しました。

従来のデマンド監視装置は、非常に高価な商品が多く、投資効果が出にくい面がありました。

V-Monitorは非常に安価な商品とすることで、投資効果がすぐに現れ、実用性が高い商品にすることができました。大型液晶画面を搭載して、お客さまに容易に「デマンド電力」を把握していただける点も好評で、すでに某ファーストフード店の店舗で数多くご採用いただいております。各種店舗など、これからの省エネニーズやCO₂削減ニーズに対応します。



V-Monitor

電機工業技術功績者表彰状

04 各種展示会に出展

「電気エネルギーマネジメント企業」をアピール

幅広いテーマで各種展示会に出展。当社技術と「電気エネルギーマネジメント企業」としての解決策・提案をご紹介いたしました。

【テクノフロンティア2007】

「さまざまな社会・生活空間でお使いいただいているシツキの製品」

主要展示品

- 家電用/自動車用コンデンサ
- 産業用/電力用コンデンサ



【2007 電設工業展】

「環境共生のお役に立てるシツキの電力機器・システム」

主要展示品

- 瞬低・短時間停電補償装置 V-Backup
- 電気二重層コンデンサ FARADCAP
- 各種電力機器システム
- (力率改善用・電力品質改善用)



【人とくるまのテクノロジー展2007】

「環境にやさしい安全・安心で快適な車社会のベストパートナー」

主要展示品

- 電気二重層コンデンサ FARADCAP
- 雑防用コンデンサ・モジュール
- インバータ回路用コンデンサ
- HEV(ハイブリッド自動車)用コンデンサ

【システムコントロールフェア 2007】

「電力の安定供給、環境共生を実現するシツキの先進技術」

主要展示品

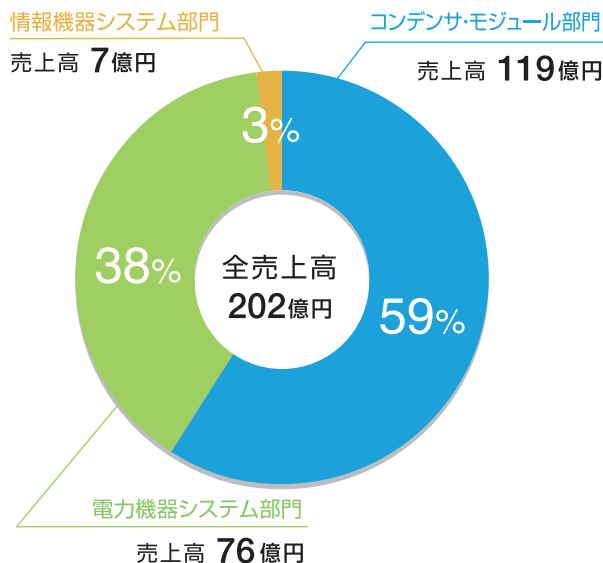
- 瞬低・短時間停電補償装置 V-Backup
- 電気二重層コンデンサ FARADCAP
- 電力品質改善装置・省エネ機器
- パワエレ回路用コンデンサ

事業概要と展望

「コンデンサ・モジュール」は、輸出型産業である自動車用及び大型産業用、「電力機器システム」は、設備投資意欲の強い国内産業及び海外需要家向けの『力率改善装置』『電力品質改善装置』『瞬時電圧低下・短時間停電補償装置』などが伸びました。

また、海外取引においては、タイ（バンコク）の生産・販売子会社の本格稼働に伴い、東南アジア地区の売上が大幅に伸びました。

部門別売上高比率（2008年3月）



売上高
構成比率
59%

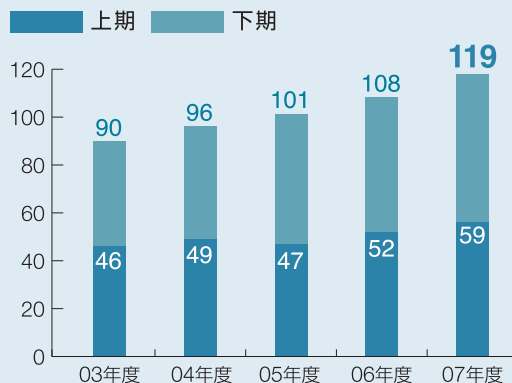
コンデンサ・モジュール部門

自動車市場、電鉄車両市場の好況、設備投資の拡大に伴う産業装置用大型インバータ機器市場の需要とシェアの拡大により伸びました。今後は、ハイブリッド型建設機械、乗用車、新エネルギー（風力・太陽光）発電機器、IH家電機器等でのコンデンサ・モジュールの需要は更に拡大するものと予測されます。

これらのニーズに応え、小型、高機能フィルムコンデンサ、高エネルギー密度・高出力密度の電気二重層コンデンサの開発を更に進めてまいります。



コンデンサ・モジュール部門売上高（単位:億円）



売上高
構成比率
38%

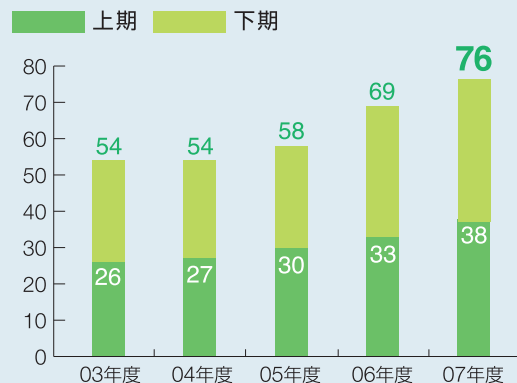
電力機器システム部門

前年度に引き続き、国内製造業の設備投資の拡大とシェアアップにより、「力率改善装置」「電力品質改善装置」が伸びいたしました。また、製造業を中心に操業度の向上を目指し、「瞬時電圧低下・短時間停電補償装置」の需要が拡大し、大きく伸びいたしました。

当社が得意とする高調波・フリッカ対策、力率制御等の電力品質改善技術力と電気二重層コンデンサの技術を融合し、新エネルギー対応・省エネ対応の新たな商品開発を推進してまいります。



電力機器システム部門売上高（単位：億円）



売上高
構成比率
3%

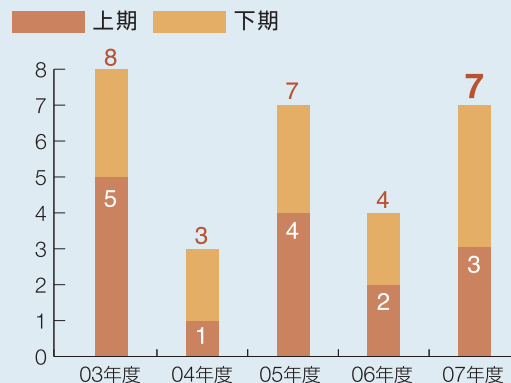
情報機器システム部門

国内・外の「鉄道用表示装置」の大型商談の受注により、大幅に伸ばいたしました。

今後も主力商品である「空港用表示装置」「バス車載の表示装置（先行・運賃等）、音声合成装置」「鉄道用表示装置」の商品力及び営業活動強化を図ると共に、当社独自の技術と大型液晶パネルの融合により、情報伝達性能の高い新商品開発を進めてまいります。



情報機器システム部門売上高（単位：億円）



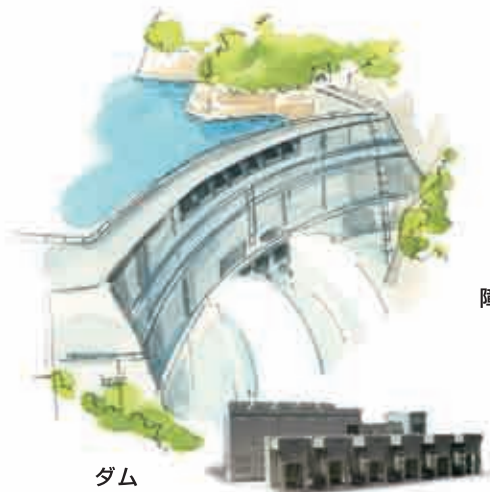
電気エネルギーをマネジメントするシツキは、社会のさまざまな分野へ商品を提供しています。

シツキが持つコンデンサの技術は、電気エネルギーの変化・安定・蓄積・放出などさまざまなニーズに対応する多様性を持ちます。高いエネルギーの蓄積および出力特性をあらゆるニーズに的確に展開しています。

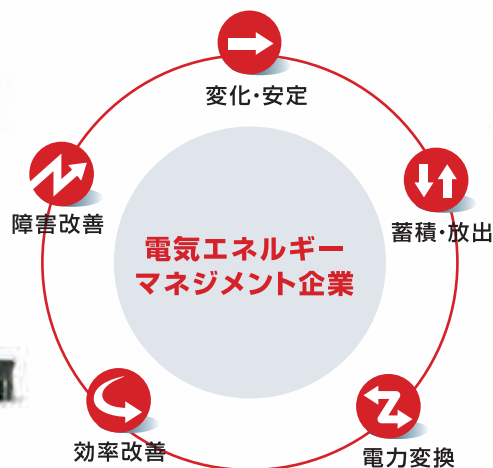


風力発電所

電気二重層コンデンサ
FARADCAP (TYPE FMA-1A)



ダム
SVC/SVG



クレーン

電気二重層コンデンサ
FARADCAP (TYPE FML-5A)



家庭用
IHクッキングヒーター
MICシリーズ



公共交通機関
情報表示装置

なるほど
シツキの
技術力!

これからの充放電デバイス——

電気二重層コンデンサって何だろう？

電気二重層コンデンサ
FARADCAP

電気エネルギーの効率活用に注目のデバイス

電気の効率的活用が重視される昨今。電気二重層コンデンサは、低環境負荷・信頼性・安全性・応用性・長寿命・メンテナンス性と、多様な条件をクリアする期待の充放電デバイスです。

電気二重層コンデンサの特長

環境に適合

材料に重金属などを必要とせず安全、しかも長寿命な環境に優しいデバイスです。

充放電に最適

充放電の耐用回数が多く急速充放電が可能。充放電効率も高く、多頻度の充放電ニーズに最適です。

高い応用性

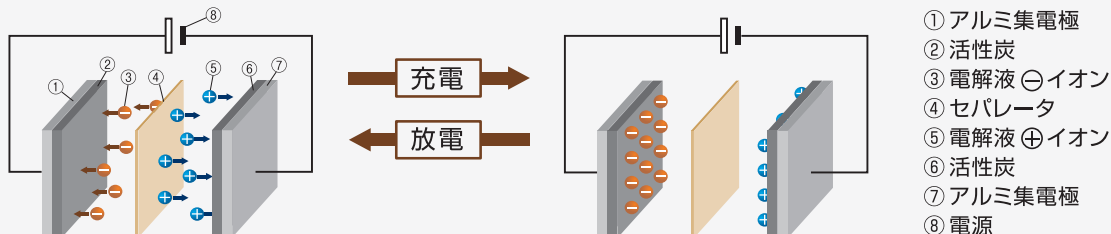
使用できる温度範囲が広く、低温でも活用可能。また放電深度も自由に取れ、設計面での応用性の高いデバイスです。

省メンテナンス

省メンテナンスで活用でき、残量の測定も簡単。劣化傾向も容量変化で捉えられ、管理が手軽です。

電気二重層コンデンサの原理

電気二重層コンデンサでは、充電により活性炭電極表面に電解液中のイオンを物理的に吸着させ、放電時にはイオンが脱着します。電池とは異なり化学反応を伴わない蓄電装置として、安全で効率的な充放電が可能となります。

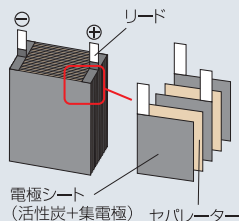


ファラッドキャップ

シツキだから提供できる 電気二重層コンデンサ FARADCAP

セル構造

シツキでは、従来からのフィルムコンデンサ技術をベースに、使用材料の最適化技術を突き詰め、性能の高い電気二重層コンデンサ FARADCAPとして市場に提供しています。



シツキだからの特性

電気二重層コンデンサをより低内部抵抗化し、更にセル構造と高電圧化による高エネルギー密度化した商品として FARADCAPを展開。

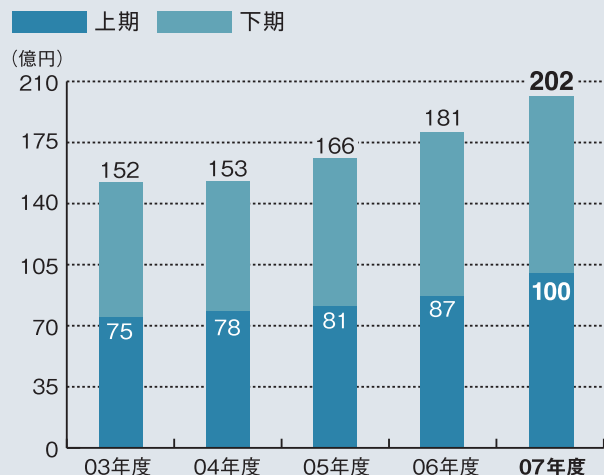
- 低内部抵抗化により高出力密度を有し、大電流で充放電が可能。
- 角型構造、高電圧化による高エネルギー密度、高効率での充放電が可能。



財務ハイライト(連結)

売上高

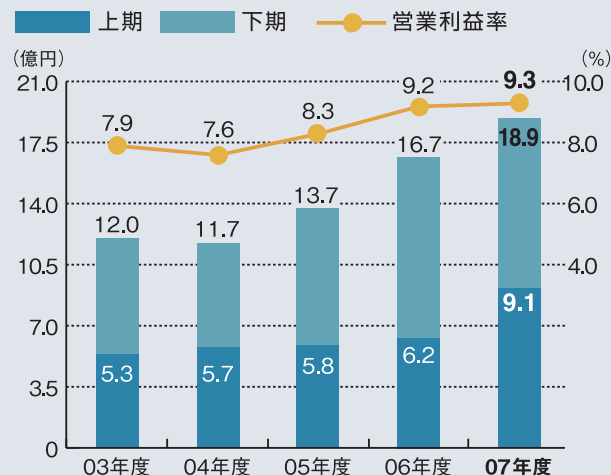
一歩ずつ着実な売上伸長



03年度の売上高からオーディオ部門を除外しております。

営業利益・営業利益率

3期連続 最高益更新中



POINT

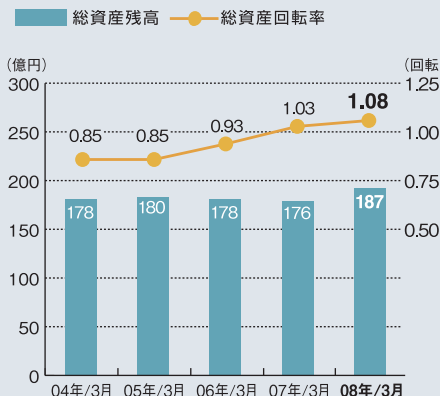
過去最高益を更新

営業利益、経常利益、当期純利益とも、過去最高益を更新しました。

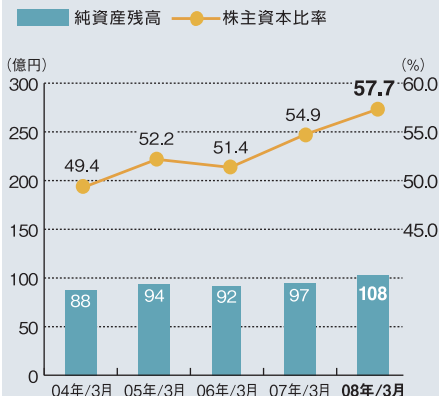
財務体質の強化進展

株主資本比率、総資産回転率、有利子負債依存度、棚卸資産回転率など、投下資本に対する効率経営を順次拡大実行中であります。

総資産残高・総資産回転率



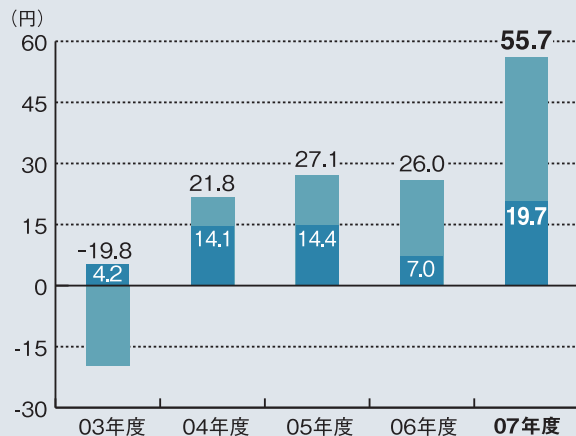
純資産残高・株主資本比率



1株当たり利益 (EPS)

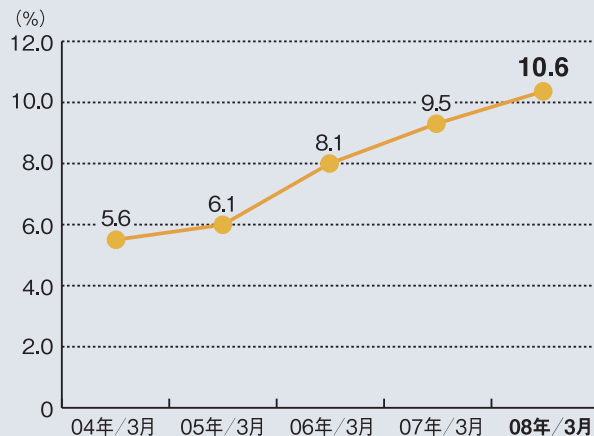
EPS 55.7円を計上 税効果影響を除いても31.2円

■ 上期 ■ 下期



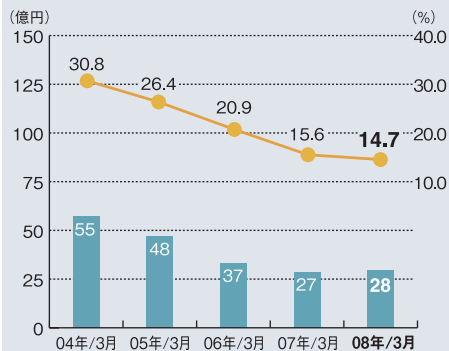
総資産経常利益率 (ROA)

当面のターゲット ROA 10%を達成



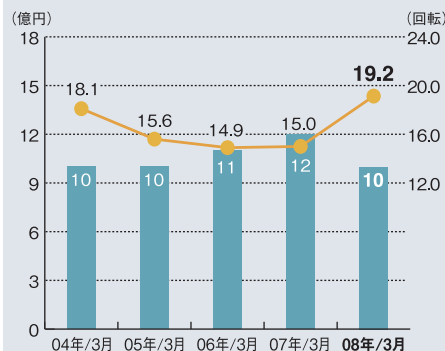
有利子負債残高・有利子負債依存度

■ 有利子負債残高 ● 有利子負債依存度



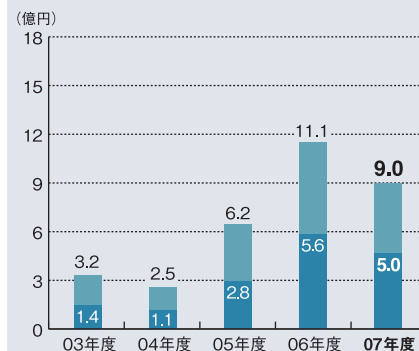
棚卸資産残高・棚卸資産回転率

■ 棚卸資産残高 ● 棚卸資産回転率



設備投資額

■ 上期 ■ 下期



(注) 十万円の位を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

| 科目 | 第79期期末 平成19年3月31日現在 | 第80期期末 平成20年3月31日現在 |
|-------------|------------------------|------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 7,827 | 8,991 |
| 現金及び預金 | 2,390 | 2,747 |
| 受取手形・売掛金 | 3,644 | 4,329 |
| 棚卸資産 | 1,206 | 1,052 |
| その他資産 | 586 | 862 |
| 貸倒引当金 | △0 | △0 |
| 固定資産 | 9,743 | 9,744 |
| 有形固定資産 | 8,256 | 8,370 |
| 建物及び構築物 | 2,329 | 2,228 |
| 機械装置及び運搬具 | 1,193 | 1,455 |
| 土地 | 4,424 | 4,409 |
| 建設仮勘定 | 123 | 86 |
| その他 | 185 | 190 |
| 無形固定資産 | 67 | 78 |
| 投資その他の資産 | 1,419 | 1,295 |
| 投資有価証券 | 970 | 680 |
| 長期貸付金 | 47 | 35 |
| その他 | 453 | 620 |
| 貸倒引当金 | △52 | △40 |
| 資産合計 | 17,571 | 18,736 |

POINT

総資産残高の増加

手許流動性の充実及び設備投資による総資産残高増加がありますが、総資産回転率は1.08回転と改善し、投下資本の効率的運用に努めております。

(単位:百万円)

| 科目 | 第79期期末 平成19年3月31日現在 | 第80期期末 平成20年3月31日現在 |
|--------------|------------------------|------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 5,011 | 3,851 |
| 買掛金 | 828 | 929 |
| 短期借入金 | 2,200 | 1,061 |
| 未払費用 | 695 | 1,029 |
| 未払法人税等 | 421 | 53 |
| 引当金 | 429 | 469 |
| その他 | 436 | 308 |
| 固定負債 | 2,879 | 4,044 |
| 長期借入金 | 400 | 1,600 |
| 退職給付引当金 | 1,041 | 1,009 |
| その他 | 1,437 | 1,435 |
| 負債合計 | 7,890 | 7,896 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 9,099 | 10,552 |
| 資本金 | 5,001 | 5,001 |
| 資本剰余金 | 3,293 | 3,297 |
| 利益剰余金 | 1,808 | 3,242 |
| 自己株式 | △1,003 | △989 |
| 評価・換算差額等 | 545 | 257 |
| その他有価証券評価差額金 | 398 | 123 |
| 土地再評価差額金 | 834 | 859 |
| 為替換算調整勘定 | △687 | △725 |
| 少数株主持分 | 34 | 30 |
| 純資産合計 | 9,680 | 10,840 |
| 負債純資産合計 | 17,571 | 18,736 |

POINT

自己資本比率の改善

利益剰余金の増加により、自己資本比率は57.7%に改善しました。

(注)十万円の位を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

| 科目 | 第79期期末 | 第80期期末 |
|--------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで | 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで |
| 売上高 | 18,092 | 20,199 |
| 売上原価 | 12,980 | 14,243 |
| 売上総利益 | 5,111 | 5,955 |
| 販売費及び一般管理費 | 3,441 | 4,069 |
| 営業利益 | 1,669 | 1,886 |
| 営業外収益 | 190 | 226 |
| 営業外費用 | 170 | 195 |
| 経常利益 | 1,690 | 1,917 |
| 特別利益 | 194 | — |
| 特別損失 | 531 | 381 |
| 税金等調整前当期純利益 | 1,353 | 1,536 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 643 | 125 |
| 法人税等調整額 | △68 | △259 |
| 少数株主利益 | △0 | 0 |
| 当期純利益 | 778 | 1,668 |

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

| 科目 | 第79期期末 | 第80期期末 |
|------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで | 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,371 | 1,550 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △716 | △995 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △1,174 | △181 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 0 | △16 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | △518 | 357 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 2,909 | 2,390 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 2,390 | 2,747 |

POINT

営業キャッシュフローの増加

営業利益を順調に拡大させることにより、営業キャッシュフローを改善しました。

財務キャッシュフローの削減

06年度に実質無借金経営を実現しており、07年度には財務キャッシュフローを削減しました。

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位:百万円)

| | 株主資本 | | | | | 評価・換算 差額等 | 少数株主持分 | 純資産合計 |
|---------------------------------|-------|-------|-------|--------|--------|--------------|--------|--------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 | | | |
| 平成19年3月31日残高 | 5,001 | 3,293 | 1,808 | △1,003 | 9,099 | 545 | 34 | 9,680 |
| 連結会計年度中の変動額 | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △209 | | △209 | | | △209 |
| 当期純利益 | | | 1,668 | | 1,668 | | | 1,668 |
| 自己株式の取得 | | | | △9 | △9 | | | △9 |
| 自己株式の処分 | | 4 | | 23 | 28 | | | 28 |
| 土地再評価差額金取崩額 | | | △25 | | △25 | | | △25 |
| 株主資本以外の項目の当期連結 会計年度中の変動額(純額) | | | | | | △288 | △4 | △292 |
| 連結会計年度の変動額合計 | — | 4 | 1,433 | 14 | 1,452 | △288 | △4 | 1,160 |
| 平成20年3月31日残高 | 5,001 | 3,297 | 3,242 | △989 | 10,552 | 257 | 30 | 10,840 |

(注) 十万円の位を切り捨てて表示しております。

個別貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

| 科目 | 第79期期末 平成19年3月31日現在 | 第80期期末 平成20年3月31日現在 |
|-------------|------------------------|------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 6,771 | 7,804 |
| 現金及び預金 | 1,588 | 1,705 |
| 受取手形・売掛金 | 3,411 | 4,087 |
| 棚卸資産 | 508 | 389 |
| その他資産 | 1,262 | 1,623 |
| 貸倒引当金 | △0 | △0 |
| 固定資産 | 9,458 | 9,011 |
| 有形固定資産 | 5,731 | 5,468 |
| 建物及び構築物 | 1,187 | 1,037 |
| 機械装置及び運搬具 | 261 | 211 |
| 土地 | 4,164 | 4,148 |
| 建設仮勘定 | 34 | 0 |
| その他 | 83 | 69 |
| 無形固定資産 | 63 | 46 |
| 投資その他の資産 | 3,663 | 3,496 |
| 投資有価証券 | 968 | 677 |
| 長期貸付金 | 1,928 | 1,632 |
| その他 | 1,413 | 1,694 |
| 貸倒引当金 | △648 | △508 |
| 資産合計 | 16,229 | 16,816 |

(単位:百万円)

| 科目 | 第79期期末 平成19年3月31日現在 | 第80期期末 平成20年3月31日現在 |
|--------------|------------------------|------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 4,621 | 3,391 |
| 買掛金 | 1,361 | 1,266 |
| 短期借入金 | 2,200 | 1,000 |
| 未払費用 | 428 | 781 |
| 未払法人税等 | 317 | — |
| 引当金 | 195 | 233 |
| その他 | 118 | 109 |
| 固定負債 | 2,065 | 3,232 |
| 長期借入金 | 400 | 1,600 |
| 退職給付引当金 | 227 | 197 |
| その他 | 1,437 | 1,435 |
| 負債合計 | 6,686 | 6,624 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 8,309 | 9,209 |
| 資本金 | 5,001 | 5,001 |
| 資本剰余金 | 3,293 | 3,297 |
| 利益剰余金 | 1,018 | 1,899 |
| 自己株式 | △1,003 | △989 |
| 評価・換算差額等 | 1,232 | 983 |
| その他有価証券評価差額金 | 398 | 123 |
| 土地再評価差額金 | 834 | 859 |
| 純資産合計 | 9,542 | 10,192 |
| 負債純資産合計 | 16,229 | 16,816 |

(注)十万円の位を切り捨てて表示しております。

個別損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

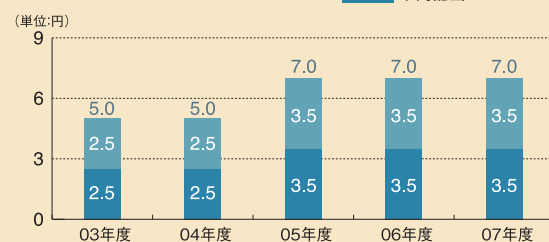
| 科目 | 第79期期末 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで | 第80期期末 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで |
|--------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 売上高 | 16,584 | 18,102 |
| 売上原価 | 12,510 | 13,266 |
| 売上総利益 | 4,074 | 4,835 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,708 | 3,185 |
| 営業利益 | 1,365 | 1,650 |
| 営業外収益 | 132 | 136 |
| 営業外費用 | 141 | 193 |
| 経常利益 | 1,356 | 1,592 |
| 特別利益 | 302 | 128 |
| 特別損失 | 166 | 381 |
| 税引前当期純利益 | 1,492 | 1,339 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 481 | 27 |
| 法人税等調整額 | 316 | 196 |
| 当期純利益 | 695 | 1,116 |

期末配当金 1株当たり3円50銭

当期の配当金は、中間配当金とあわせ、1株当たり7円とさせていただきます。

1. 期末配当金 1株当たり3円50銭
2. 支払対象者 平成20年3月31日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者
3. 支払開始日 平成20年6月13日

1株当たりの配当実績



個別株主資本等変動計算書

当事業年度(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位:百万円)

| | 株主資本 | | | | | 評価・換算 差額等 | 純資産合計 |
|-----------------------------|-------|-------|-------|--------|--------|--------------|--------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 | | |
| 平成19年3月31日残高 | 5,001 | 3,293 | 1,018 | △1,003 | 8,309 | 1,232 | 9,542 |
| 事業年度中の変動額 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △209 | | △209 | | △209 |
| 当期純利益 | | | 1,116 | | 1,116 | | 1,116 |
| 自己株式の取得 | | | | △9 | △9 | | △9 |
| 自己株式の処分 | | 4 | | 23 | 28 | | 28 |
| 土地再評価差額金取崩額 | | | △25 | | △25 | | △25 |
| 株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額) | | | | | | △249 | △249 |
| 事業年度中の変動額合計 | — | 4 | 881 | 14 | 899 | △249 | 650 |
| 平成20年3月31日残高 | 5,001 | 3,297 | 1,899 | △989 | 9,209 | 983 | 10,192 |

2008年3月31日現在

株式の状況

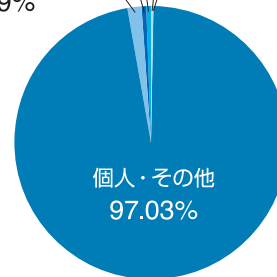
| | |
|--------------|--------------|
| 会社が発行する株式の総数 | 128,503,000株 |
| 発行済株式の総数 | 33,061,003株 |
| 当中間期末株主数 | 4,685名 |

大株主（上位10名）

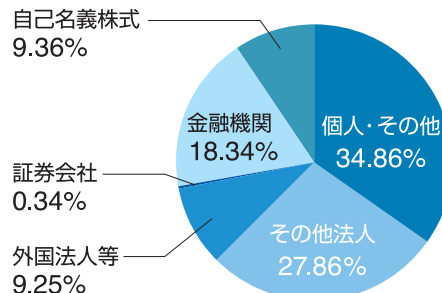
| 株主名 | 持株数(千株) | 出資比率(%) |
|-------------------------|---------|---------|
| 三菱電機株式会社 | 6,981 | 21.1 |
| ゴールドマンサックス インターナショナル | 2,210 | 6.7 |
| 日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 | 1,646 | 5.0 |
| 株式会社りそな銀行 | 1,299 | 3.9 |
| 株式会社みなと銀行 | 925 | 2.8 |
| 指月協友持株会 | 734 | 2.2 |
| 東京海上日動火災保険株式会社 | 565 | 1.7 |
| 株式会社ノーリツ | 560 | 1.7 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 432 | 1.3 |
| 日新火災海上保険株式会社 | 338 | 1.0 |

所有者別株主数分布状況

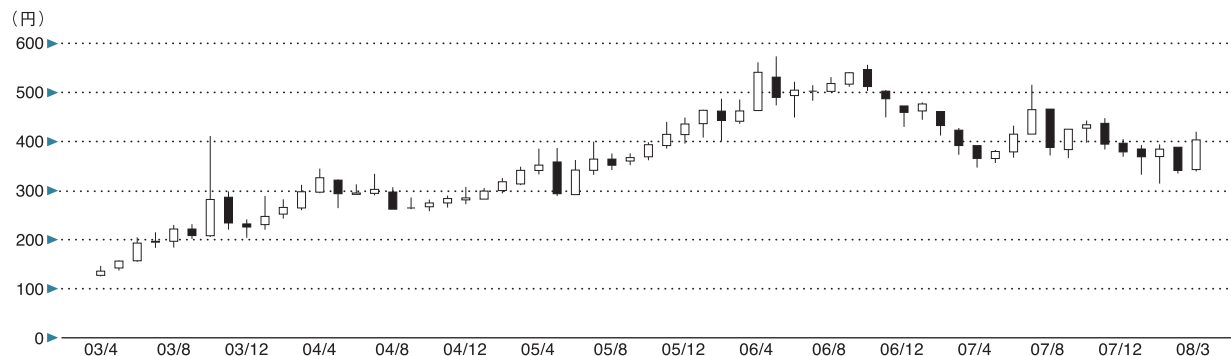
証券会社 0.45% 金融機関 0.28%
 外国法人等 0.53% 自己名義株式 0.02%
 その他法人 1.69%



所有者別株式数分布状況



株価チャート



2008年3月31日現在

会社概要

| | | |
|----------|---|--|
| 商号 | 株式会社指月電機製作所 | |
| 英文名称 | SHIZUKI ELECTRIC COMPANY INC. | |
| 本店所在地 | 〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号 TEL:0798-74-5821 | |
| ホームページ | http://www.shizuki.co.jp/ | |
| 創業年月日 | 昭和14年3月10日 | |
| 設立年月日 | 昭和22年9月1日 | |
| 資本金 | 5,001,745,595円 | |
| グループ従業員数 | 1,232名 | |
| 主要取扱業務 | <ul style="list-style-type: none"> ●コンデンサ及び関連機器・装置 ●電力機器・装置 ●情報機器・装置 の製造販売 | |
| 営業拠点 | <ul style="list-style-type: none"> ●東京支社 ●東京支店／関西支店／中部支店 ●札幌営業所／仙台営業所／日立営業所 広島営業所／福岡営業所 ●マレーシア連絡事務所／韓国連絡事務所 | |

役員

取締役

※社外取締役

| | |
|-------|--------|
| 取締役会長 | 梶川 泰彦 |
| 取締役 | 木佐木 正文 |
| 取締役 | 川本 十七生 |
| 取締役 | 山下 正孝※ |
| 取締役 | 池田 義範※ |
| 取締役 | 増田 幹登※ |

執行役

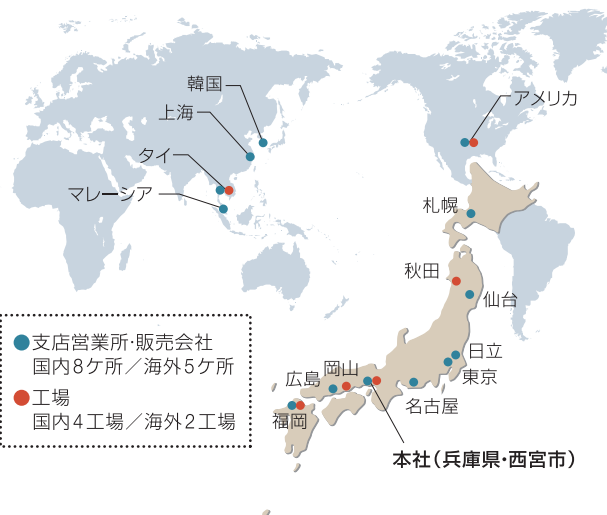
| | |
|---------|--------|
| 代表執行役社長 | 梶川 泰彦 |
| 常務執行役 | 木佐木 正文 |
| 常務執行役 | 志方 正一 |
| 常務執行役 | 足達 信章 |
| 常務執行役 | 浦屋 昌吾 |
| 執行役 | 谷口 義裕 |
| 執行役 | 伊藤 薫 |

生産子会社

| 社名 | 資本金 | 出資比率(%) |
|----------------|-----------|---------|
| 九州指月株式会社 (福岡県) | 300,000千円 | 100.0 |
| 秋田指月株式会社 (秋田県) | 300,000千円 | 100.0 |
| 岡山指月株式会社 (岡山県) | 100,000千円 | 100.0 |

販売・生産子会社

| 社名 | 資本金 | 出資比率(%) |
|-----------------------------|------------|---------|
| アメリカンシツキ株式会社 (米国 ネブラスカ州) | 17,600千米ドル | 100.0 |
| 指月獅子起(上海)貿易有限公司 | 250千米ドル | 100.0 |
| タイ指月株式会社(タイ バンコク) | 33,000千バーツ | 70.0 |



株 主 メ モ

| | |
|-----------------------|---|
| 決算期日 | 毎年3月31日 |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 期末配当金支払確定日 | 毎年3月31日 |
| 中間配当金支払確定日 | 毎年9月30日 |
| 株主名簿管理人 | 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同 事務取扱場所 (お問い合わせ先) | 〒530-0004 大阪市北区堂島浜1丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL:0120-094-777(通話料無料) |
| 同 取次所 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店 ○株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話 およびインターネットで24時間承っております。 電話(通話料無料) TEL:0120-244-479(東京) TEL:0120-684-479(大阪) インターネットホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/ |
| 公告の方法 | 当社は以下のURLで電子公告を行います。 http://www.shizuki.co.jp/ ※事故その他のやむをえない事由により、電子公告を行うことができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。 |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所 市場第2部 大阪証券取引所 市場第2部 |

『指月(シツキ)』社名の由来

『指月』の社名は、創業者山本重雄が長州(現在の山口県)の出身であること、また幕末長州藩の一代家老として藩政改革で功を成した村田清風が先祖にあたることから、毛利家歴代の居城である萩城(指月城)から名をお借りしたのが命名の由来です。



株式会社 指月電機製作所

本社 〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号
TEL:0798-74-5821 FAX:0798-73-0807

